AIGAWA REPORT№.4　2014年1月25日

大阪府安威川の治水を考える流域連絡会TEL０７２－６２４－５４６１

ダム本体工事の中止。本川と支流の茨木川や大正川の治水は堤防の強化、流出抑制施設など治水対策の転換をすすめる。

流域連絡会がアピール

大正川

「大阪府河川整備計画では（大正川は）春日橋上流では概ね１／１０年（時間雨量５７．５㎜）の治水安全度を下回る区間があり、概ね時間雨量２０㎜程度の対応となっている（現行流下能力は２０㎥／毎秒）」としています。しかしこの流下能力２０㎥／毎秒の計算には上流の５つのため池の貯留能力（貯留量１１万㎥）が算入されており、この流下能力は実態と異なるものである。

また大阪府が２０１０年に公表した「洪水リスク図」では現行の同地点の流下能力は１０年確率をクリアーして、３０年確率には届いていないしているが、こり計算にも5つのため池の貯留能力を算入したものとなっており、実態とかけ離れたものとなっている。

また大阪府河川整備計画では「大正川の河川整備は春日橋上流で概ね１／１０年（時間雨量５７．５㎜）による洪水を対象とし、計画対象区間において、河川の拡幅や掘り込みは困難なため流域内のため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調整池などの流出抑制施設を整備する。その整備目標流量を春日橋地点で２１㎥/毎秒 とする」そして具体的には「松沢池、地蔵ヶ池、鶴ヶ池、亀ヶ池、駒ヶ池、ゴルフ場下流池など既存貯留施設の有効活用と松沢池の余水吐の改良、西小、沢池小、西陵中、茨木西高などの校庭貯留による新規調整池を設置する」としています。

茨木川等

大阪府河川整備計画「現在、川合裏川、勝尾寺川、茨木川は概ね100年に一度発生する規模の降雨（日雨量２４７．０㎜）による洪水に対応出来る整備が完了していますが、佐保川の福井上橋上流では概ね１／１０年（日雨量１７１．１㎜）の治水安全度を下回る区間があり、概ね日雨量１００㎜程度の対応となっており今後も引き続き国際文化公園都市の開発計画と整合した対応が必要となる」としている。具体的には「茨木川・佐保川では、福井上橋から馬場大橋下流２．８㎞を河道拡幅と河床掘削等河道改修を実施する。左支川八日日川流域等は新規調節池等流出抑制施設を整備する」としています。

いずれにしても、大正川も茨木川等支流の治水安全度は低く流域連絡会の「安威川本川は堤防補強が実施されれば、百年に一回規模程度の洪水は流下できる。一方、茨木川など支流の改修が遅れている。したがって本川の堤防補強、支流の改修および堤防補強を優先するのが望ましい」との主張が正当性があることが明らかである。